

<http://www.minamih.net/>



12・9・8(土)
南NEWS NO34

1年生の南への勧誘をお願い

南には幼児から小学生・中学生、一般の部・壮年部・女子部のカテゴリーがあり、最年長の方は80歳を超えても現役でサッカーを楽しんでいます。

南の方針はご存じのように“サッカーを通して、他に優しく、やらなければいけないことをやり抜く強さを持つこの育成”を目標・願いとして活動しています。

ところが、今年の1年生は5人です。みんなGAMBBAっているのですが、もっと仲間がほしいのです。かわいい1年生達の“三間”を充実させるためにご協力をお願いいたします。

子育てのお手伝いをする楽しいクラブ・南へのお誘いをぜひ皆様をお願いいたします。
矢上

南八王子 Jrユース おめでとう！！ 第7回湯殿川カップ 松田杯 優勝！！

VS	エフバみなみ野	5-0
VS	浅川中	4-1
VS	プログレッシブ稲城	3-1
VS	山梨北中	4-2
VS	藤野中	4-1



I 「4-4-2から4-5-1へ」

3年生は今まで基本フォーメーションを4-4-2でやってきた。しかし今年度が始まった4月以降4-5-1に変化させた。理由は大きく2つある。1つは「流動的な展開」を生みだしたかったこと。2つ目には「3年生だけでは戦えなくなったこと」。

「流動的な展開」とは、ポジションにこだわらず前線が自由に動き、空いたスペースを利用することであると考えている。4-4-2では「2トップが前のスペースを消してしまう」「サイドハーフの運動量が厳しい」「1・5列目の飛び出しが少ない」といったデメリットが見え始め、攻撃が点と点の単調なゲームが増えていた。結果、得点があまりとれないという現状に結びついていた。

「3年生だけでは戦えなくなったこと」とは、休部する人数が増えて、残り的人数が15人を切り、さらに塾などで試合に参加できるのが7~8人であること。現に湯殿川カップで3年生だけで11人組めた試合は一つもなかった。それで1・2年生の力を借りることになる。4-4-2のサイドは運動量が多いため3年生相手には厳しい。また2トップにして中盤を薄くするのも怖い。そこで3年生4枚をDFに置いて、さらにダブルボランチを置く4-5-1にすることで、この現状を打開しようとした。以上2つを大きな理由として4-5-1に変化させることになった。4-5-1を取り入れてから4ヶ月。その成果がこうして結果に現れたのであった。

II 「湯殿川カップ」

4-5-1について細かく指導を始めて2ヶ月くらい経ってからの湯殿川カップ。拓大杯や練習試合を通して実践的に準備をしてきた。今大会を振り返ると試合ごとに成長していったように見える。以下、まとめてみた。

- ・チーム全体で4-5-1のやるべき役割を把握することができた。
- ・3年生が多少欠けても軸がしっかりしたのでチーム力が落ちない。
- ・ワントップ、スリーシャドウになって得点能力が非常に上がった。
- ・DFを3年生の固定メンバーにすることで失点が少なくなった。
- ・ビハインドからの試合にも焦らず勝つことができていた。



以上のようなことが挙げられた。

この大きな要因としては、4-5-1のやるべきことを各自、チーム全体が理解していることがある。つまり、共通の戦術理解ができるようになったことで、今までは考えてから動いていた（もらう動き・パスを出す）ことが、「試合の流れ」から動くことができていた。つまり、ワントップが速い攻撃が可能となる。また、DFも同様に、ポジションごとの役割を理解できているため、早い寄せ・バランスを崩すことが少なくなった。

III 「まとめ」

チームに決まりごとを作っただけで、共通理解を選手同士が持つことができる。さらに、コーチが示したことなら子どもは「自信」を持ってプレーができる。今、消極的な子どもが恐れているのは「何をしたいのか分からない」「自信がない」「間違いだったら恥ずかしい」といったことだ。そのような子どもに「自分で考えろ」「何がしたいのだ」と怒鳴っても、何をしたいのか分からない・何が正しいか分からない。つまり、判断できる知識・引き出しがないのだから無駄であると思う。

だから、子どもに共通理解を持たせることや試合中の決まりごと・ルールを決めること、練習時にはあらゆる試合の場面をイメージすることが必要であると私は考えている。試合に入る前に「さあ自由にやってこい」「おまえ達に任せる」の声かけは指導ではない。基礎がない子に應用はきかない。ペースをコーチが作ってあげた上で、試合中の判断や行動は子ども達に任せることが大切ではないかと今大会を終えて改めて実感することができた。

中学3年生になり「個」だけでなく「チーム」を意識するようになってきた。しかし、試合前や試合中、練習中、常に「相手だって15歳、同い年に1対1で負けていいの？負けるな！」と口を酸っぱくするくらい「個」には厳しくしてきた。結局チームプレーも個の塊。南八王子において、「個」をおろそかにすることだけではないようにこれからもできる限り関わってきたい。



松田杯を持って喜びの3年生

南八王子第25期生OB
第2次南八王子 Jrユース1期生OB
南八王子 Jrユースコーチ 磯村 雄大